

第1回復興支援プロジェクト

平成23年6月25～26日

宮城県東松島市・塩釜市(寒沢島)

参加者:鈴木大亮(企画総務課)・阿部国広(園芸特産課)

東松島市 東名駅周辺

震災前



6/25 現在

他団体との待ち合わせ場所が東松島市の東名駅でしたが、ナビ通りに到着してみると駅らしきものが見当たりません。よく見ると、駅舎や線路が津波で崩壊しており、かろうじてホームのみが残っていました。

おおそ線路を境に、海側は壊滅・山側は半壊という状況です。



物資とメンバー



自転車4台、野菜苗約100株、プランター30、土60袋、肥料30を物資として持参しました。今回の宿泊場所は被害のなかった市街地にあるキャンプサイトです。

自転車と野菜苗を届ける活動は、山形大学の学生2名、JA鶴岡職員2名で行いました。

写真中央は津波でご家族を亡くされた被災者の方です。ほんのわずかのトマトの苗の提供でしたが「復興の象徴にしたい」と喜ばれました。



活動報告 1



避難所生活をしながら自宅の改修などに戻ってきている被災者宅を訪問し、7世帯に野菜苗を届けました。

ほとんどの世帯でご家族を亡くされており、クルマ、住宅、菜園なども失っています。

「やっぱり自分の家に帰りたい。やることなくとも毎日家の様子を見に来ている」と話す被災者は、野菜を育てることで家に通う理由ができた、と喜んで下さいました。

「妻は震災以降、家に一度も戻ろうとしない。あの日の出来事がトラウマになっているようだ」という被災者は、「妻にこの苗の成長を見せたい。連れてくるきっかけになった」と話してくれました。

山形大学の学生メンバーも、予想以上の反響だとして、これからもJ Aと共同で活動させてほしいと要望されました。



活動報告 2

野菜苗を届けた際に、家の隣の畑が津波で荒れ果てていると聞き、急遽、がれきとゴミの撤去作業も実施しました。

住宅地以外の畑などは、まだまだがれきの撤去が進んでいません。気力が低下してきている被災者は自力での作業は困難なため、大変喜ばれる活動になりました。



同行していたT U Yのディレクターら2名も、積極的に作業に協力してくれました。



ディズニーランドのお土産らしきものや演歌のカセットなど、生活に根ざした品々が泥に埋もれて次々と出てきます。名前入りのゲートボールのラケットを見つけたために連絡所へ届けましたが「その人は亡くなっています」とのこと。



集めたゴミやがれきの山。ここから先は行政にお任せになります。



土の内部は真っ黒なヘドロ交じり。まだまだ畑の復旧には至りません。

被害状況



サイクリングコースの先が海になっています。



住宅地に船と電柱が折り重なっています。



飼い主を待ち続けるリラックマ。飼い主は間違いなく小さな子供。家は全壊しています。



自衛隊が家の中を捜索した履歴。



コンバインと田植え機もぐちゃぐちゃに。



向こうに老人ホームが見えますが、海に浮かぶ島のようにになっています。

被害状況 2



寒風沢島へ



2日目は塩釜市からフェリーで約40分の場所にある寒風沢島（さぶさわしま）に向かいました。

前夜にキャンプサイトで知り合ったアウトドアブランド「モンベル」のボランティアグループも同行することになり、約10人で活動しました。

この島はもともと1集落しかなく100人規模の島でしたが、すべての住宅が津波被害に遭い、多くの島民は島を離れ、現在は高台にある廃校に10数人のみが避難生活をしています。

避難所前には仮設住宅の建設が進んでいて、近々入居できる見込みです。

この日は東京の有名店のシェフが4人集結して、和食・洋食・中華・フレンチを振舞いました。



寒風沢島の被害

悪天候のために屋外での作業は断念しました。

島の田んぼや畑の被害状況を見て回りましたが、ほとんどの田んぼは水に浸かっていました。

田んぼは転々と残っているものの、農作業の余力や気力がない、とのことでした。

避難所前に植えてもらうために野菜苗の提供と草むしりを実施しました。



長年島を守ってきた堤防もあっさりと決壊しました。



池ではなく田んぼです。海の魚が泳いでいます。



土の中はヘドロと海水にまみれています。



島唯一の大型農機も破壊されました。



体育館には多くの救援物資が。仮設住宅への入居時に活用されると思われます。